スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

静岡県 伊豆市

自 治 体 名 ： 静岡県伊豆市
担 当 課 名 ： 社会教育課
電 話 番 号 ： 0558-83-5477

1.自治体の基本情報

スポーツ庁

基本情報

面積	363.97 ㎢
人口	27,674 人
公立中学校数	4 校
公立中学校生徒数	566 人
部活動数	24 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	未策定

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

現在の運動部活動は、生徒・教員数の減少、教員の多忙化、生徒・保護者のニーズの多様化等の様々な課題が挙がっている。この課題に対し、運動部活動においては今後部活動の活動日及び時間短縮など規模の縮小を予定している。【部活動活動日：平日3日、休日4時間まで、終了時刻：令和５年度17:00→令和6年度16:30】

この状況に対し、令和５年度に地域スポーツ団体に中学部活動の地域移行受け入れ調査を実施したが、週末の練習試合や大会引率などの対応は困難であり、受け入れ可能団体はない状態である。

また、今後生徒が選択できる活動の場は、①部活動（今後更に縮小が見込まれる）・②スポーツクラブ（競技力向上が目的）・③帰宅し自由時間（塾や家庭学習等）の３つと想定され、①に希望する種目がない生徒や②に行きたくても諸事情でいけない生徒の活動の場がなくなることが懸念されることから、対策が必要である。

スポーツ団体調査【令和5年5月～6月】

スポーツ協会（社会人団体　17団体：18競技団体加盟　〇回答数　100%　※聴き取り含む）

㋐休日及び平日の学校部活動の指導者派遣（部活動指導員等）への支援は可能か？

→**「支援可能」は、休日・平日ともに約26%**

（理由）・平日や土曜日は仕事で支援困難　・チームの指導や引率等の重責を担うのは負担

㋑今後、中学生の受け入れは可能か？

→**「受入可」は68%**

（課題）・大人と中学生が一緒に練習するのに配慮が必要

スポーツ少年団（小学生～高校生団体　25団体加盟　〇回答数　100%　※聴き取り含む）

㋐休日及び平日の学校部活動の指導者派遣（部活動指導員等）への支援は可能か？

→**「支援可能」は、休日・平日ともに約32%**

（理由）・平日や土曜日は仕事で支援困難　・都合の良い時のみの指導な検討の余地あり

㋑今後、中学生の受け入れは可能か？

→**「受入可」は88%**

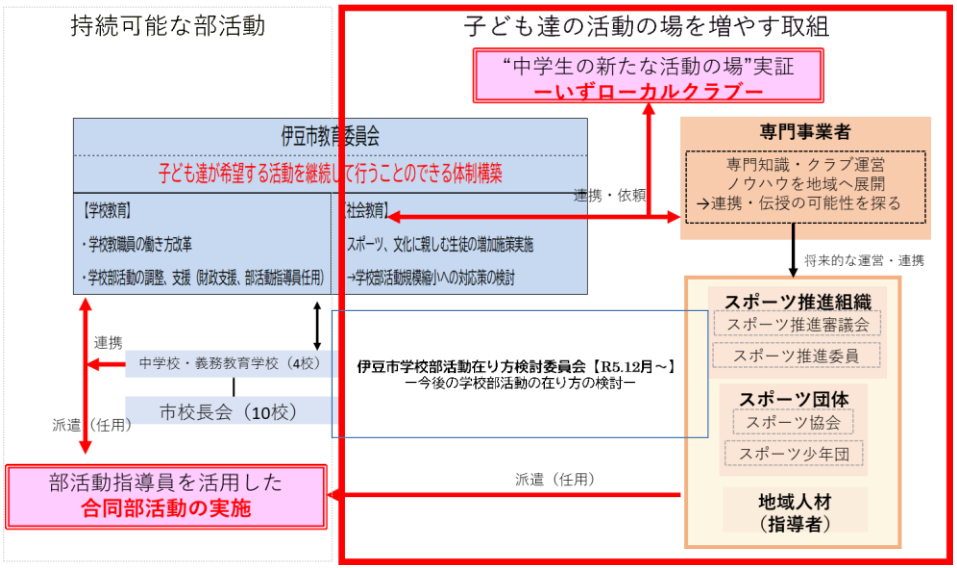
（課題）・ボールやコート等異なる規格への対応　・試合引率や中学生チームの運営は困難

2.実証内容と成果

スポーツ庁

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◉教育委員会

【学校教育課】
・運動部活動の地域移行に向けての検討（部活動指導員の導入等）

【社会教育課】
・子ども達が希望する活動の場の持続可能な体制構築に向けた検討、試行

◉首長部局

【企画財政課】
・予算措置

年間の事業スケジュール

令和６年３月	検討委員会に提案、協議
令和６年４月	モデル校生徒・保護者・教員へ説明 生徒へアンケート実施
令和６年５月	アンケート集計 →クラブ運営受託者の検討・決定
令和６年６月	検討委員会に進捗報告
令和６年７月	モデル校に募集チラシ配布・告知
令和６年８月	参加予定者決定、準備
令和６年９月～ 12月	クラブ試行　計12回 （第1.3水曜日・第2日曜日）
令和６年12月	参加者アンケート実施
令和７年１月	全校生徒アンケート実施、集計 次年度事業の検討

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	1 校	実施した地域クラブ総数	1 クラブ
クラブ数	部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		いずローカルクラブ
全体の指導者数	1 人	全体の運営スタッフ数	2 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
いずローカルクラブ	民間事業者	ネット型スポーツ（新）	月３ 回（第1･3水曜、第２日曜）	水曜 15：00～16：30 日曜 8：00～10：00	中学２年	令和６年９～12月	モデル校（中伊豆中学校）	1 人	1人	なし	なし

2.実証内容と成果

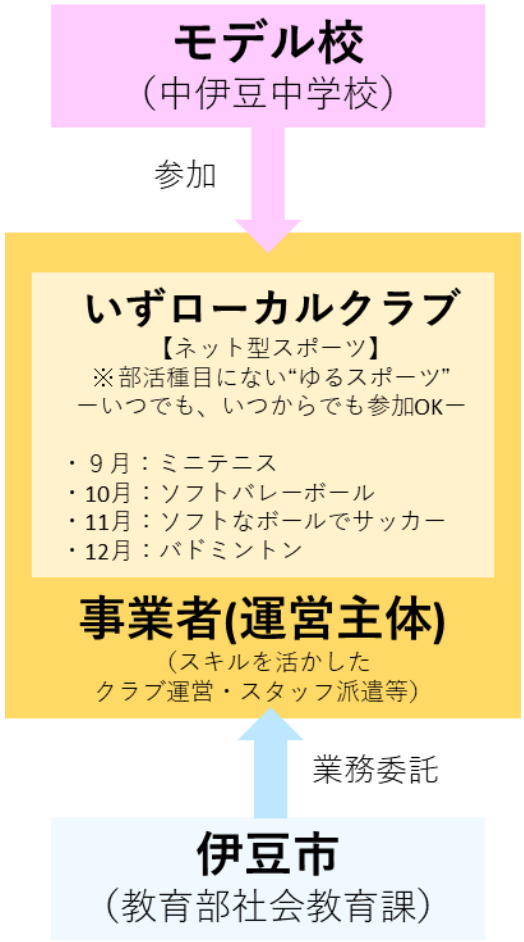
スポーツ庁

主な取組例

●いずローカルクラブ　活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	ネット型スポーツ
運営団体名	㈱エスパルス
期間と日数	ミニテニス：９月4.8.18日 ソフトバレー：10月2.13.16日 ソフトなボールでサッカー：11月6.10.20日 バドミントン：12月4.8.18日
指導者の主な属性	スポーツクラブコーチ
活動場所	中伊豆中学校体育館
主な移動手段	徒歩、バス、自転車、親の送迎
１人あたりの参加会費等（年額）	なし
１人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒１人あたり：30円/回 指導者１人あたり：30円/回

●運営体制図（活動実施時の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●統括責任者（講師）

クラブの実施、指導

→参加者の体力・運動能力に応じたメニューの実施

●運営補助者　１名（行政）

クラブ運営のサポート

→参加予定者の出欠・スケジュール確認（バス等下校時刻）、怪我その他事案への対応

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

〇市（社会教育課）が新たな地域スポーツクラブを創設・試行し、生徒が希望する活動の場の創設や事業内容について、生徒のニーズや満足度を調査し持続可能なクラブ活動へ繋げていく手法を検証する。
〇クラブは、運動部活動の活動がない休日及び平日に、生徒への事前アンケート結果により希望の多いスポーツクラブ（既存の運動部活動競技以外の種目）を試行する。
〇運営は、これまで当市のスポーツ事業に関わり子ども達の体力やスポーツへの関心度等を把握している事業者に運営を委託し、生徒が希望する競技等を継続して取り組みたくなるようなクラブ活動のプランニング・実施を行う。また、学校体育施設を活用し放課後そのまま参加可能な形で行う。

取組の成果

〇試行段階では市（社会教育課）がコーディネートし、クラブ運営業務受託者・モデル校（中伊豆中学校）・検討委員会等の各団体との連絡調整・クラブ運営等を円滑に行うことができた。今後は、持続可能な体制の構築・運営主体の検討を協議していく。
〇クラブの設定は、部活のない日で部活にない種目を行った。今後の部活規模の縮小や選択肢の一つとして、当クラブを新たな活動の場として提供できた。
〇民間事業者に運営業務を委託したことで、参加者の満足度の高いクラブ内容となった。

コーディネーターの設置状況などについて

〇現在、伊豆市にはコーディネーターは設置していない。今後運営を担う地域団体・指導者人材リストや連携可能なクラブとの調整など、「伊豆市学校部活動在り方検討委員会」で提案し助言等いただきながら、当市において効果的な体制構築を進めたい。

今後の課題と対応方針

〇子ども達が希望するスポーツ活動に継続して関わることができ、切れ目なく活動できる場を提供できるよう、課題である中学部活動や放課後の充実の支援を充実し、生涯学習の推進を図っていく。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保

当市の現状・課題との関係性

当市のスポーツ協会及びスポーツ少年団の加盟団体会員数は減少が続き、若年層からスポーツを続け、将来指導者として地域スポーツ活動に尽力いただいている成人の人数も減少傾向にある。中学部活動はその後も継続してスポーツを行う「生涯スポーツ」を支える重要な役割を持つことから、中学期でスポーツに親しむ場を維持していくことは、当市のスポーツ推進の観点からも重要である。

取組事項

令和６年度当初に、中規模校（モデル校）の全生徒に希望する競技等についてアンケート調査を行う。その結果に対応可能で、当市のスポーツ事業に関わり子ども達の体力やスポーツへの関心度等を把握している事業者に、生徒が希望する競技等を継続して取り組みたくなる活動のプランニング・実施が可能な地域事業者に委託することで、質の高い指導者を確保できた。
※指導者研修はスポーツ教室等を実施する専門事業者に委託し実施したため、実施していない。

取組の成果

〇参加した中学生10人を対象としたアンケートの結果、各月異なる種目に対する満足度については、回答者全員が「大変満足」「満足」と回答し満足度の高い結果となった。
〇講師は3人が交代で指導に当たり、毎回参加人数やメニューが異なる状況下においても参加者の体力・運動能力・性格などの特徴をクラブ開始序盤で把握、柔軟に対応し、参加者全員がスポーツを楽しむ“ゆるスポーツ”の場を提供できた。
〇当クラブは放課後の活動であり、教員の負担を増やすことなく子ども達の活動の場を提供している。

2．クラブの内容はいかがでしたか？　※途中から参加した方もいるため、数は実数

メニュー		大変満足	満足	不満	大変不満	合計
スポーツ	ミニテニス	3	0	0	0	3
	ソフトバレー	4	0	0	0	4
	ソフトなサッカー	6	0	0	0	6
	バドミントン	7	1	0	0	8

【出典】いずローカルクラブ参加者アンケート結果（社会教育課）

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

モデル校となる中学校をはじめ、学校と運動部活動の調整を行う学校教育課、新たなクラブ活動を運営する事業者、地域スポーツ団体との連絡調整を行うNPO伊豆市スポーツ協会等に対し、様々な活動の場への支援・連携を仰ぎながら、子ども達が希望する活動を維持する体制構築に向けて試行する。

取組の成果

〇民間事業者が講師を務める点・新規クラブとして学校活動外で行う点など、従来の集団（クラス・部活動の部員）とは異なるメンバーと新たな活動ができる場として案内したことで、興味を持ってくれた生徒・保護者の理解を得られ参加に繋がった。

〇一方で、クラブの概要・内容を上手に伝えきれず、「何をする場なのかわからない」「いずローカルクラブの存在を知らなかった」という生徒・保護者の声もあり、今後の案内方法等を改善する必要がある。

今後の課題と対応方針

〇子ども達が希望する活動を継続して行える場を安定して提供可能な体制を構築するには、運営費の低コスト化・安定した指導者の配置・安定した財源の確保（一定の受益者負担）等の課題をクリアする必要がある。民間事業者の運営ノウハウを参考にしながら、今後地域で運営可能な体制を検討していく。

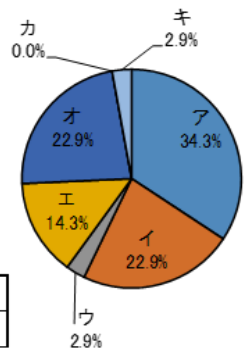
★クラブについて

1、参加のきっかけ、理由を教えてください（複数選択可）

ア　おもしろそうだったから
イ　友達から誘われたから
ウ　親に勧められたから
エ　部活とは違う競技ができそうだったから
オ　新しいことを体験できそうだったから
カ　その他（　　）
キ　無回答

	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	合計
全体	12	8	1	5	8	0	1	35

【参加のきっかけ】



【出典】いずローカルクラブ参加者アンケート結果（社会教育課）

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　オ：内容の充実

取組事項

運動部活動の将来のモデルケースとして新たな地域文化クラブの創設・試行を行い、子ども達が希望する活動の場の選択肢を増やすための検証を行った。

現状・課題

生徒・教員の減少により、運動部活動の活動規模は縮小の見込みであり、今後子ども達の活動の場は更なる減少が課題となっている点について、対策手法の一つとして本事業を実証し検証が可能となる。

活動の詳細

参加人数	10 人（最大）	指導者数	1 人
属性	部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目の木浦部を新規に創設）		
具体的な内容	市（行政）が新たな地域スポーツクラブを創設・試行する。生徒が希望する活動をアンケート調査し持続可能なクラブ活動へ繋げていく手法を検証する。対象は中規模中学校１校とし、運動部活動の活動がない休日及び平日に、希望の多いスポーツクラブ（既存の運動部活動以外の活動）を試行する。 クラブの運営には、これまで当市のスポーツ事業に関わり子ども達のスポーツ活動への関心度等を把握している事業者に運営を委託し、充実したメニューを行う。また、学校体育施設を活用し生徒が希望する活動の場を提供する。		
子供の声	● あまりやったことがなかったから新鮮だった（ソフトバレー） ● 毎回楽しかった ● もっとみんなに参加してほしいほど楽しかったです ● 授業以外のことができて楽しかった		
関係者の声	● いい試みだと思うが案内のタイミングが遅く、既に別の予定があり参加できなかった ● 新たな事業だったため、内容を理解できておらず参加に至らなかった生徒がいたのでは… ● 将来的な場の提供も大事だが、現在の部活やもったやりたい生徒への支援も必要かと ● 指導者リスト・活動したいグループの集約・マッチングをする運営団体を創ってほしい		
運営経費	・クラブ運梨業務委託費 ・参加者保険料		

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

子ども達が希望する文化活動の場を創設し、環境（活動場所、時間、内容等）についてニーズや満足度を調査する。経費は市で負担し参加料は無料とした。

地域クラブに係る経費

■イニシャルコストの分析

・なし（行政にて準備）

■ランニングコストの分析

・会場使用料（０円）※学校体育施設利用
・指導者謝金（55千円）
・運営スタッフ人件費（２千円）
・指導者、スタッフ旅費（60千円）
・消耗品費（20千円）
・印刷製本費（35千円）※募集チラシ作成
・備品借用料（20千円）

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

〇今年度は初回の試みであり行政主体で参加者のニーズや満足度を検証するため試行した事業であることから、受益者負担なしで行った。
〇仮に、今回のクラブ活動を受益者負担で行った場合
① 運営経費　約25万円
② 参加者数　33人（R6実績　延べ人数）
→②／①≒　7,575円／人（12回）　→約630円／人（回）　であり、現状のまま継続実施する参加費としては決して安価ではない。

☆民間事業者のノウハウを参考に、充実したクラブ活動を行える体制構築に向けて協議していく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　キ：学校施設の活用等

取組事項

当市は市域が広く、登下校はバスを利用する生徒が多い。部活動や新たな場へ参加し帰宅するためのバス路線は限られた本数であることから、子ども達が放課後最も参加しやすい場所（モデル校の体育館）を設定し、今後の事業の継続性・内容の充実を図った。

取組の成果

〇学校体育施設（体育館）の利用については、放課後の時間帯で学校活動外の利用であり、一般団体への開放と同様に利用申請・許可を経て利用し、特に問題なく利用できた。

〇参加者や保護者にとっても、学校終了後そのまま体育館に移動し参加できたため、関心のある生徒の参加に繋がった。

〇クラブ開催日を、部活動のない日（第１・３水曜日の放課後、第２日曜日の午前中）に設定したため、既に予定を入れてしまっていた生徒が多く、興味はあるが参加できないといった声もあった。

日	9/4(水)	9/8(日)	9/18(水)	10/2(水)	10/13(日)	10/16(水)	11/6(水)	11/10(日)	11/20(水)	12/4(水)	12/8(日)	12/18(水)
スポーツ【在籍10人(兼IT4人)】	ミニテニス			ソフトバレーボール			ソフトなボールでサッカー			バドミントン		
参加状況(人数)	1年男(2)			1年男(2)	1人部活のため0	1年男(2)	1年男(2)	1人部活のため0	1年男(5)	1年男(6)	1年男(4)	1年男(7) 1年女(3)

【出典】いずローカルクラブ活動の様子（社会教育課）

今後の課題と対応方針

〇クラブ実施日は部活動のない日としているが、引き続き学校や学校教育課に事業趣旨を説明・理解を得ながら、活動日・場所の調整を図っていく。

〇子ども達が希望する活動を継続して行う場の維持には、生徒が通いやすい場所・低コストで利用可能な学校体育施設の利用を依頼していく。

2.実証内容と成果①

スポーツ庁

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

今年度初めて試行した「いずローカルクラブ」は、今後子ども達（特に中学生）が希望する活動を継続して行う場の確保するために行った。これは、将来的な「部活動の地域連携」を見据えたもの・生涯にわたり切れ目ないスポーツ・文化活動を行う「生涯学習の推進」に寄与するための取組といった観点から提案・実施した。

部活動は合同部活動の実施・部活動指導員の任用などで教員の負担軽減を図りながら継続していく見通しであることから、部活動と競合しない日時を設定し誰でも参加できる形式とし、各機関の理解を得て実施でき、参加者の満足度は高かった。

しかし、新たなクラブの実施であったため、対象者に事業趣旨を伝えきれていなかったり、部活動のない日には既に別の予定を入れてあるため参加できないなどの声もあり、人数は少数に留まった。

また、現在行っている部活動への更なる支援（部活動以外の時間で活動したい生徒への、場所・指導者の支援等）に対する要望の声もあり、再度状況確認が必要である。

●成果の評価

〇「いずローカルクラブ」の参加者は、開始当初は３人と少数だったが最終回（12回）には10人に増えた。参加者や様子を見に来てくださった校長からの口コミの影響が大きかった。参加者に行ったアンケートではいずれも満足度は高く、もっと多くの人に参加してほしかったという意見ももらえ好評だった。

〇内容は事前にモデル校の全校生徒にアンケートを行い、部活動にない種目をベースに自由意見も聴取し決定した。メニューは「ネット型スポーツ」と名付け、ミニテニス・ソフトバレーボール・ソフトなボールでのサッカー・バドミントンなど、日頃行う機会の少ないオリジナルの種目を行い、参加者にも好評だった。

〇部活動や学校活動にない種目を日頃関わりの少ないメンバーで行うクラブとなり、参加者から「新鮮で楽しめた」と好評だった。

●今後に向けて

〇初年度は行政主体で行ったが、今後継続して活動可能なクラブ運営のため、実施主体を担う団体や自活可能な事業規模（財源・運営）の検討・調整を行っていく。

〇参加者数は、想定（上限30人程度）をかなり下回った。告知でクラブの事業趣旨を伝えきれず、クラブの目的や存在が曖昧であった。今後は目的を明確に伝え、早い段階で告知し他の予定と競合しないよう準備していく。

〇子ども達が希望する場を継続して行う場づくりのため、運営主体・指導者の発掘などを各機関と連携しながら、実現の可能性を探っていく。

2.実証内容と成果②

スポーツ庁

アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果　・対象者　参加者10人

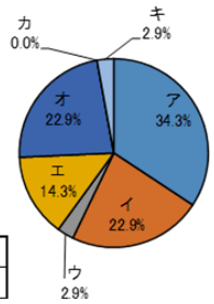
（再掲）

★クラブについて

1、参加のきっかけ、理由を教えてください（複数選択可）

ア　おもしろそうだったから
イ　友達から誘われたから
ウ　親に勧められたから
エ　部活とは違う競技ができそうだったから
オ　新しいことを体験できそうだったから
カ　その他（　　）
キ　無回答

【参加のきっかけ】



	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	合計
全体	12	8	1	5	8	0	1	35

2．クラブの内容はいかがでしたか？　※途中から参加した方もいるため、数は実数

メニュー		大変満足	満足	不満	大変不満	合計
スポーツ	ミニテニス	3	0	0	0	3
	ソフトバレー	4	0	0	0	4
	ソフトなサッカー	6	0	0	0	6
	バドミントン	7	1	0	0	8
文化	生成AI	1	2	0	0	3
	eスポーツ	2	2	0	0	4
	プログラミング	2	1	0	0	3

【出典】いずローカルクラブ参加者アンケート結果（社会教育課）

●参加者の声

中学１年生（女子）
・バトミントンだけの参加だったけど楽しかった。
・次はもっと参加してみたいです。
・ス孤児時間を長くしてほしい。

中学１年生（男子）
・あまり深くやったことがなかった。（ソフトバレー）
・やったことがなかったから楽しかった。（ソフトバレー）
・毎回楽しかった。

指導者
・素直で明るい生徒ばかりで、指導しやすかった。
・何事にもやってみようと全力で取り組んでくれていた。
・独自メニューを作成・実施し自由度の高い運動ができた。

学校
・新たな取り組みを当校生徒が体験出来て良かった。
・学校活動外の活動を異なる集団で行う場の創出は、生徒にとっても有益であった。

2.実証内容と成果③

スポーツ庁

アンケート結果・広報資料

〇「いずローカルクラブ」実施に際し、令和６年３月～４月に、中伊豆中学校校長及び教職員・保護者（PTA総会時）の皆様に事業の説明後、５月に全生徒へ「実施してほしいクラブ種目」の調査を行い、以下の結果をふまえ、メニューを決定しました。

〇メニュー決定後、民間事業者と協議し参加募集チラシを作成・配布し参加を募りました。



【生徒への参加啓発チラシ】　出典:社会教育課

〇調査結果（一部）

選択種目・結果（回答数 103 人／110 人　回答率 94%）	
【スポーツ】	
・ボールゲーム（T ボール、ドッチボール、キックベース）	26
・ネット型スポーツ（バレーボール、卓球、テニス、バドミントン）	43
・陸上体験（走る、投げる、跳ぶなどの上手な体の使い方）	7
・ライフキネティック（運動しながら脳を使う、誰でも楽しめるスポーツ）	3
・からだづくり（楽しくバランス、ストレッチ）	1
・ダンス	9
・悩んでいる・分からない	13
・その他（意見：野球１人）	1

調査の結果、希望の多かった下記クラブを実施予定で準備を進めます。

〇ネット型スポーツ（バドミントン、ミニテニス、ソフトバレーボール等）

【アンケート結果】　出典:社会教育課

2.実証内容と成果④

スポーツ庁

参考資料（活動写真）



【バドミントン】



【ウォーミングアップ
ライフキネティック】



【ソフトバレーボール】



2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和５年

協議会設置、検討開始 ▶ 受け皿団体や指導者・拠点校の検討 ▶

令和６年

モデル校との調整 ▶ 生徒、保護者への説明 ▶ 地域クラブ活動の試行 ▶

令和７年

地域クラブ活動の検証・充実

●ステークホルダー

学校、NPO法人伊豆市スポーツ協会、競技団体、市教委

●経過

令和５年度より検討委員会を設置し、各団体代表から現場の意見・要望などを共有するとともに、今後の部活動の在り方を協議した。

令和６年度は、合同部活動や部活動指導員の任用によって、部活動を行いながら、将来的に生徒が希望する活動を継続して行う場を提供できる体制の構築に向けたクラブ活動を創設・試行を行った。

●実施内容、工夫した点 等

〇生徒が希望する活動の場を、部活動以外の種目で活動日時を避け試行・検証した。市内中学校（中伊豆中学校）の全校生徒と対象に行った。

〇運営は、当市のスポーツ事業に関わり子ども達の特徴を把握している事業者に運営を委託し企画・実施を行った。

〇学校体育施設を活用し生徒が参加しやすい活動の場を提供した。

●実施にあたって生じた課題

〇生徒が希望する活動は何か明確でなかったため、モデル校の全校生徒を対象にアンケート調査を実施し、メニューを決定した。

〇クラブの運営主体・指導者などをコーディネートする役割を担う団体や人材が現時点で依頼できなかったため、行政（社会教育課）主体で企画・実施することとした。

●今後の展開

〇クラブ終了後、参加者と対象校の全生徒を対象にアンケートを実施し、満足度・要望・「いずローカルクラブ」の認知度・より参加しやすい日時などについて調査・分析し、令和７年度により良い体制で運営できるよう、検討委員会に提案し協議・実施していく。

〇現在活動している部活動で、もっと活動したいクラブや指導者などの要望について、検討委員会などで聴き取りつつ、いずローカルクラブでの活動に繋がるクラブの可能性についても検討していく。

3.今後の方向性

スポーツ庁

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

伊豆市が目指すスポーツ活動・文化活動の見通しと３つのステージ

◎少子化の中でも、**子どもの『やりたい』を叶えられる**体制づくり

- 当面部活動は維持しつつ、子どもが希望する活動を継続して行える場を検討・試行
- 多様な場は、部活動が果たしてきた「教育的効果や居場所としての役割」を継承しながら、生涯学習推進にも効果をもたらす環境として整備
- 地域の人や団体などの組織などと連携し、持続可能な運営を目指す

